

理工系・情報系人材育成を支援する

理工系女子は就職率が高い

東京都市大学では、文部科学省の「女性研究者支援モデル育成」の指定を受け、平成21年度から23年度まで女性研究者支援事業を実施している。そのひとつが、女性研究者支援目的のため「女性研究者支援室」の設置だ。同「支援室」では、工学部系学部の女性卒業生の卒業後の動向を調査。その結果を公表した。

同学では、「女性研究者支援モデル育成」事業・技術者・女学生の相談実施に伴い、ミッション・ステートメントとして、以下の4つを掲げた。

- ①全学科へ最低でも1人女性教員を配置。
- ②3年間で大学全体の女性比率を10・8%から15%に、工学系では7・9%から9%に高める。
- ③首都圏における工学系私立大学のモデル校として情報を図して実施された。

東京都市大学が「女性研究者支援」モデル事業

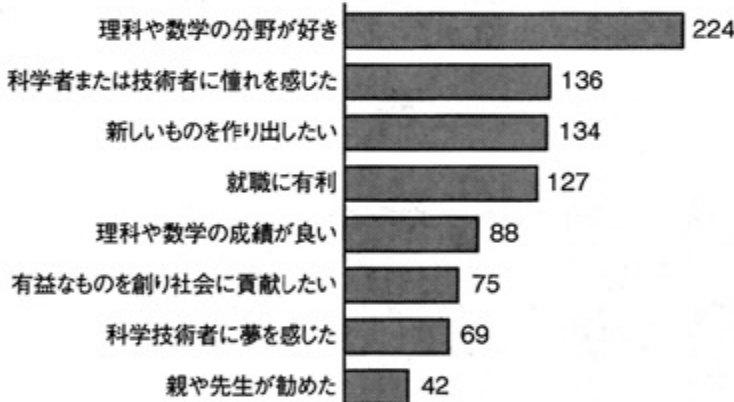
性割合が増えるなど成果を上げている。今回の調査は、卒業後の動向を把握し、今後の指導に役立てることを意図して実施された。

理系進学者は目的や夢が明確

就職状況は卒業直後の就職率が82・7%と高く、研究技術職には59・1%が就いている。また、現在就職している人は76・6%に上り、うち68%が研究技術職に就業している。

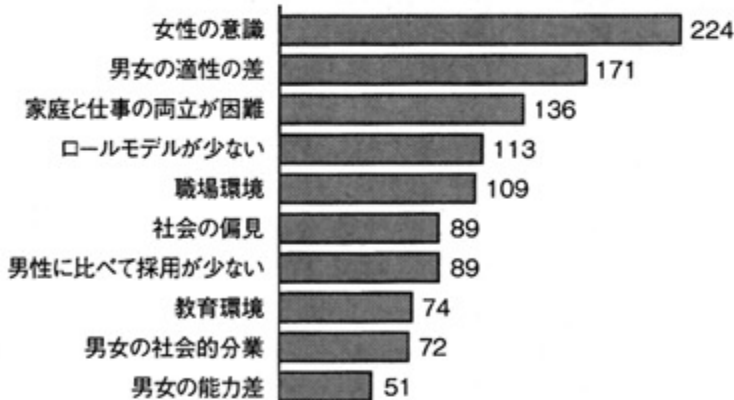
工学部系の大学を選んだ理由

(3つまで選択可)



理工系分野に女性が少ない理由

(3つまで選択可)



理工系分野に進学した理由は「理科や数学の分野が好きだった」、「科学的な意識が強い」、「科学者または技術者に憧れを感じた」、「親や先生が勧めた」など、目的や夢が明確な学生が多いことが分かった。また、現在就職している人は76・6%に上り、うち68%が研究技術職に就業している。

キャリア継続には「夫の協力」が必要。女性の「仕事・家事・育児・介護」と「自分のための時間」との両立に必要なことを質問したところ、「夫の協力」、「多様な働き方」、「職場の雰囲気」、「保育施設の増設」、「男女役割分担の意識を変える」となっている。

同「支援室」では、「結婚や子育てなどのライフイベントの際にどのような形で職業とかかわっていくのかを再考する必要がある。子育ては小学校に入学して終わるわけではなく、子どもの年齢に合わせて長期のサポートが必要。それと同時に、一歩頼りになる身近な存在である夫の協力は非常に重要な要素」と分析している。